

～東葛飾地域自治会町会の情報交換会～
TOKATSU 自治会フォーラム in 我孫子(TOK7_2026)
実施報告

1. 日時：2026 年 1 月 31 日(土) フォーラム 14:00～16:30、アフターフォーラム 17:00～19:00
2. 場所：我孫子市生涯学習センターアビスタ ホール
3. 参加者：フォーラム 89 名、アフターフォーラム 35 名
 - 1) 市別参加人数(グループワーク参加者、実行委員含む)
我孫子市 30 名、柏市 19 名、流山市 10 名、野田市 2 名、白井市 2 名、鎌ヶ谷市 2 名、
松戸市 1 名、八千代市 1 名 計 67 名
 - 2) 実行委員(グループワーク不参加) 6 名
 - 3) オブザーバー(主に市職員、マスコミ) 13 名
 - 4) 当日参加(自治会関係) 3 名
 - 合計 89 名

4. 講演内容(概要)：

- 1) **基調講演**：「米国ポートランドの City Repair Project に学ぶ
－自治会に活かす「場づくり」の実践－」

講師 江戸川大学 教授 廣田有里

①City Repair Project

住民主導のプレイスメイキングを行う市民団体。近隣住民・学校・行政をつなぎ、ストリートペインティングや街角のキオスク、自然素材の建築物などで“みんなの居場所”を生み出している。ストリートペインティングは、絵を描く場所に関連する住民が、路面に巨大な絵を描く共同作業により、交流や結束を促進し、地域のアイデンティティを醸成するもの。

②Village Building Convergence(VBC)

近隣住民・団体・行政パートナーが、実践と学びを通じて街の一角を“居場所”に変えるコミュニティ実装の試みを行う。具体的にはストリート・ペインティングの修繕やワークショップ、街角のキオスクや自然素材の建築物の修繕など

③自治会での応用

ストリート・ペインティングのポイントは、「近所で合意」や「若者(学校や子ども)を巻き込んで図案づくり」「許可や準備が明確」「屋台や音楽があり雰囲気づくりは手を動かし、同じ方向を見る機会」「維持のため、1年でリフレッシュ塗装は再会の口実」であり、日本で置き換えるなら、公園のベンチ再塗装や公園入口サイン作り、通学路の花壇作り、掲示板アート作りなどがある。道路占用が難しい場合は、公園・集会所の前庭や駐車場の一角を使うことも一案。

- 2) **事例発表**：「みんな仲良し湖北台 - コロナ禍を乗り越えて -」

講師：我孫子市 五十嵐湖北台自治会連合会会長 五十嵐顯一

①湖北台自治会連合会とは

- ・湖北台にある11の自治会の集合体であり、3種類のイベント(鯉のぼりまつり、サマーフェスタ、湖北サンバ)の実行委員会や年2回の4団体(湖北台自治会連合会、社会福祉協議会、まちづくり協議会、防犯指導員連絡協議会)懇談会等があり多くの団体と関わりがある。
- ・「みんなで愚痴を言い合える場にしよう」「みんなで考え、意見を出し合おう」に心掛けた。

- ・ 5 年が経ち、各々の自治会が互いに協力し、規約等の情報共有化が進み、お互いが知り合い、人脈が財産となった。
- ・ 連合会が抱えている問題・課題は、各自治会の役員のほとんどが任期 1 年なので 1 枚岩に出来ないことや、各自治会の会員数に差があり会費・動員人数などに不公平感があること。やりがいのある活動を目指して日々苦悩している。

②自治会長としての悩み

- ・ 自治会未加入問題 ・ 役員を拒否する会員増加（高年齢化） ・ ごみの不法投棄
- ・ 行事への参加率低下問題 ・ 集金（会費・募金） ・ 空き家問題
- ・ 災害対策（防災訓練は実施しているが、災害時の協力体制）
- ・ 不測の事態（前例の無い事）への対応（会員宅の火災）とたくさんある。

3) 参加者からの質問と講師からの回答：別紙参照

5. **グループワーク**：「楽しい行事が地域をつなぐ」をテーマに以下の項目を話し合った。

☐ あなたの自治会・町会活動の実情（楽しい活動内容や自慢話）

☐ あなたの自治会・町会運営の課題

☐ あなたの自治会・町会運営を今後どのようにしたいか

各グループの討議概要は以下参照。

1) **Aグループ**

①子どもに焦点を当てる（＝参加が生まれる起点）

子どもが集まる活動は、地域全体を活性化させる。一方で、担い手不足や安全面の課題があるため、規模の縮小、内容の見直し、熱中症対策の徹底、場合によっては「やらない」判断も含めた現実的な再設計が必要。防災×祭りなど、複数事業を組み合わせる再編成の視点も有効。

②人が関わる・参加する仕組みを地域につくる

役員主導だけでなく、公募制、住民主導、世代間交流を取り入れることで、住民の声やニーズが見えてくる。こうした仕組みは、担い手不足への対応や新たな人材発掘につながり、自治会活動を「地域の人づくり」として捉える視点が重要

③「楽しい」を起点にする

楽しければ人は集まり、関係が生まれる。地域活動は「正しい」だけでなく、楽しくなければ続かない。祭りや交流の場を通じて、人をつなぐ、人を知り合わせる工夫を意識することが重要。

2) **Bグループ**

①自慢しよう！うちの町会活動

- ・ ハロウィンイベントの開催は、子どもが高齢者宅を訪問する仕組み。高齢者と子どものコミュニケーション促進や高齢者の安否確認にもつながっている。
- ・ 神社でのイベント開催は、シンプルな内容だが、町の人が集まりやすく、地域の交流拠点として機能。
- ・ 町内会イベントをイベンターに委託は、役員が時間や手間に縛られない。夏祭り等を自前で開催するより費用を抑えられる。

- ・7月開催「夕涼み会」は、現金販売を採用し、子どもが小銭を使う体験ができアプリ決済以外の学びにつながる。
- ・落語・健康マージャンの実施は、高齢者に非常に人気であり「家から出るきっかけ」になる。

②町会活動の課題

- ・外国人住民には排除の壁は作らない。ただし、ルールは守ってもらう必要がある(特に団地)。
- ・自治会未加入者との関係は、自治会は任意加入のため、未加入者とのコミュニケーションが不足。イベントには未加入者も参加しているが、加入のインセンティブがない。
- ・コミュニケーションづくりは、住民同士が自然に関われる「仕掛け」をどう作るかが課題。
- ・町会役員の担い手につき、町会長が若返ったが、現役世代のため活動時間の確保が難しい。

③その他

- ・行政の立場から、デジタル化を求める声はあるが、デジタルとアナログの並立が重要。ICTだけに頼らず、多様な取り組みを行う必要がある。
- ・町内会費について、各町内会の会費事例として月額300円、500円がある。柏市の平均町内会費は300円。
- ・集金方法は、現金集金とオンライン集金のハイブリッド方式を採用している町内会あり。

3) Cグループ

①共働き世帯の増加、子育て世代を巻き込むようにはどうしたらよいのか?

- ・餅つき大会、スイカわり、そうめん流しなど食が結びつく行事を開催している。
- ・防災運動会などを開催して、親子参加型をしている。
- ・連合会単位での防災訓練を学校と連携し(土曜日開催)開催。布佐地区は学校側と合わせて、授業参観日に開催して、教職員の負担を軽減している。またこもれびまちづくり協議会では毎月38自治会に興味あることを企画しているが、なかなか参加が難しい。

②連合会の設立の経緯と課題

- ・3.11で被害があり復興もあり、自治会同士の連携が取れないとまずいと考え、災害の際に連合会的なものがないとダメだと気付いた。
- ・市への様々な要望などをまとめている事例もあるが、そこまではとてもできない状態で防災に特化しているケースもある。
- ・連合会会長は、現役世代では難しいので退任した方が担うケースがある。

③柏市の地域協働を考える会の設立の経緯は、市民向けの大学校が発祥である。

④自治会運営の課題について

- ・メリット、デメリットではなくて、考え方の切り替えをしてほしい
- ・安定した生活、安全な地域
- ・条例制定して、〇〇市はこうなんだという感じにしてほしい
- ・自治会のメリットは近所の付き合い、生活環境の考え方
- ・外国人対応は、コミュニケーションをどうするのか検討が必要である。食で攻める、バレンタインをかけてゲームなどの企画を小さくても進めていくのも一案。黄昏マーケット、このぼりまつりでは、スリランカの方にイベント企画手伝いを依頼していくことからスタート。

⑤今後どのようにしていきたいか?

- ・学校との連携、地域との連携は必要であり、放課後の時間などを利用し放課後ルームなど地域を身近に感じる関係ができれば良い。
- ・協議会、コミュニティーセンターでは子どもたちの居場所づくりを提供している。

4) Dグループ

①「防災×エンタメ」の発想

- ・「防犯講話」という堅いテーマを、映画館での映画鑑賞とセットにすることで、集客と学習効果を両立させた白井市の事例は、非常に参考になった。

②お金の「還元」による信頼構築

- ・「運営費用の貯金が増えたら会費をもらわない（免除する）」という運用は、住民にメリットが分かりやすく、自治会への信頼感につながる素晴らしい取り組みだと感じた。

③共通の課題と前向きな姿勢

- ・どの地域も「高齢化・担い手不足」という共通の悩みを抱えているが、「悩みはどこも一緒」と共有できたことで、最後には「防災なら手伝える」「楽しいことならやってみたい」という前向きな意見が多く聞かれたことが最大の成果。

5) Eグループ

①「楽しい行事」を中心とした討議内容

- ・イベントはスタッフが楽しむことが重要。スタッフが楽しめるように進める
- ・行事は役員がやるのではなく、参加者中心に進める。例えばお祭りで、「店を出したい人」「出し物を企画したい人」等、それだけならやりたい人は結構いる。
- ・人を集めるには、宣伝の仕方も重要。文書を何回も出すとか。
- ・子どもには、手伝いなどに参加すると、「ボランティア証明書」を出す。
- ・若い世代が参加して楽しい行事を企画する。ディスコの踊りまくり等企画したら、若い人が喜んで参加して楽しんだ。
- ・色々なことをやる。自分たちのやりたいことをやる。要望によってスマホ教室の開催、健康の事を考えて体操、モノづくり、ウォーキングをしたりした。定例的に決めるのではなく、月2回何かやっている。
- ・文化祭では、地域のサークル活動の結果を出しているの、色々なものが出てくる。カラオケサークルの1年の成果発表等。
- ・イベントに合わせて、店を出したり、キッチンカーを出したりすると人が集まる。

②上記以外の話題

- ・野田市では、「防災士」の資格取得の補助をしているので、町会の多くの人が「防災士」に挑戦している。
- ・お助け隊で、ゴミ出しや買い物、植木等の水やり支援などを実施している。(1回200円)

③全体的な感想

- ・進行役が、うまく全員の発言を心掛け、また適切なアドバイスを入れたため、楽しいディスカッションになった。
- ・各町会とも、特に役員の負担をどうやって減らすか、若い人をどうやって活動に取り込むか等に工夫をして取り組んでいる様子がうかがえた。

6) Fグループ

①「楽しい行事」を中心とした討議内容

- ・熱中症対策の一環で夏祭りから秋祭りに変更

- ・役員が「祭り」の準備をするのではなく、専門委員会（祭り委員会を立上げ）が実施。自治会の役割は予算化&サポート。
- ・近隣学校（高校）との連携（吹奏楽部が参加）
- ・パン食い競争を実施
- ・親子で参加出来るイベントを企画。秋の焼き芋、御神輿、綿あめ、花見、かき氷等ある。
- ・防災訓練ではネーミングを変えて芋煮会として開催
- ・コンサート、パソコン教室、赤ちゃんサポートを実施

②町会運営の課題

- ・町内会員の構成比がヤング層／高齢層＝50／50で混在
- ・高齢者とのコミュニケーションが難しい
- ・地元の地域での運動会で実況放送をした事が印象に残っている子供がいる一方、今の子供は多忙。自由な時間がない。高齢化が進んでおり、小学生が2名のみしかいない。
- ・「飲み食い」を批判する住民もいる
- ・騒音、役員の高齢化が理由で祭りは中止している

③今後の活動に向けて

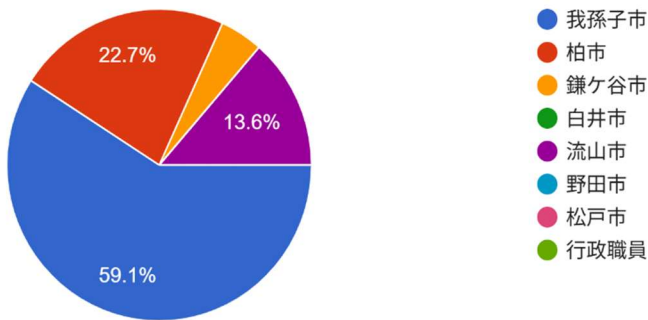
- ・フリーマーケット（自宅玄関前に商品を並べる）や物々交換会の実施
- ・防犯パトロールの一環で消防設備の点検を実施
- ・玄関に「タオル」を掛けて安否確認をしている
- ・大学（東京理科大学等）や高校、企業との連携。高校、大学では地域のボランティアに参加すると単位が取得できる。学校側との連携が大事。学校に依頼する時には事前にスケジュールを提示する事が大事。
- ・自治会役員会を効率的に進めるために事前（1週間前）に議題案を提示する。

④担い手不足に関する討議内容

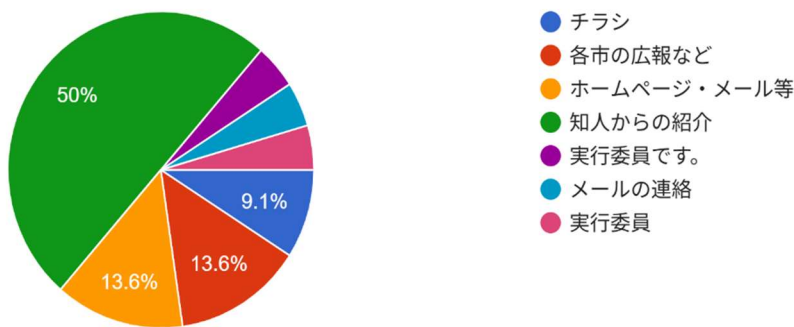
- ・実態として、役員は輪番制、役職を決めるのが難儀。会長職が副会長を2名指名し役割を明確にする。会長に自ら立候補、副会長が若年層で育成している。会長になると様々な宛職（他団体の役員等）に任命される。様々な団体の会議は平日に開催されるので、会社員では対応が難しい（平日を希望）。
- ・担い手確保として、ベネフィット制度の導入、ボランティア活動すると役員やごみ当番をスキップ等の特典。自治会の仕事を削減する事も選択肢（外注化）。町会の資産価値を上げるための方策（不動産屋も着目）の検討。
- ・役員選出細則を制定しており、細則制定にあたり居住者との車座集会を開催。カレーと茶菓子を準備。役員辞退要件を制定（80歳以上、介護認定者及び介護認定を受ける家族が居る世帯はNG）但し、本人が希望する場合は可能としている。
- ・役員の任期を2年とした。役員の半分を入れ替える（役員引継ぎの効率化）。自治会役員の任期長期化により不祥事等が懸念される。

6. 参加者アンケート結果 (n=22、2026 年 2 月 15 日時点)

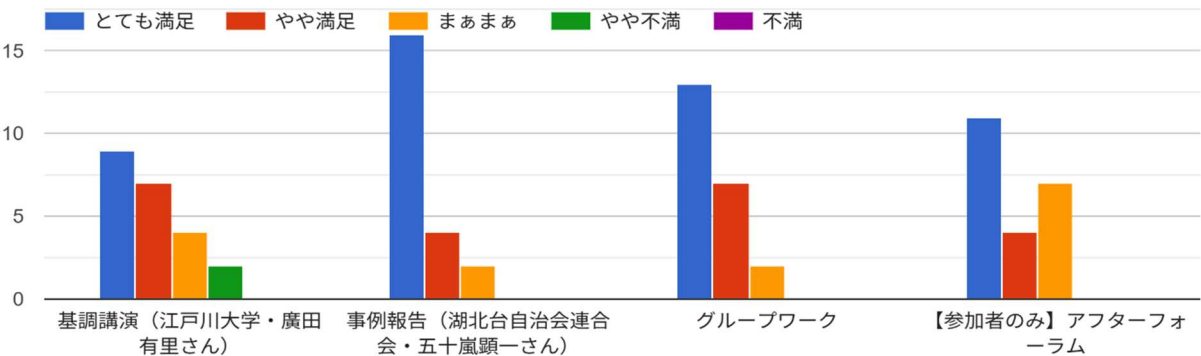
どこから来られましたか
22 件の回答



このフォーラムを何で知りましたか
22 件の回答



フォーラムに参加された感想はいかがでしたか



●具体的な感想

- ・我孫子市の皆さんは、新鮮なイベントで、特に喜んでいただくと感じます。
- ・皆さん抱えている課題は同じで、自らも含め具体的事例を欲していることが分かりました。
- ・基調講演は、国内事例ばかりだとどこかで聞いた話になるが、廣田先生の事例はアメリカのもので、新鮮な気持ちになった。グループワークでも、皆さん前向きなアイデアを豊富に持っておられて、参考になったし元気になった。
- ・グループワークの時間を、長くほしいです。初めての参加で勝手が分からず、少し自分ばかり長く話をしてしまったかと反省しています。みなさん同じ悩みと同じ方向性なことを知り、自分のこれまでの活動が無駄ではなかったと感じました。今立て込んでいる課題が多々あり、また他のみなさんも同様かと思いますので、もう少し深く話をしてみたかったと思いました。グループワーク時に、自己紹介の時間を短縮して、より深くお話をするために、所属する自治会？の構成や、今抱えている課題などを、グループ毎に最初に配布していただくことは可能でしょうか？事務局のみなさんには、お手数をおかけすることになりますが、限られた時間をもっと有効に使いたく思いました。
- ・参加者の過去経緯の不明に抵抗がある。
- ・講演を1時間にして グループワークを2時間がいいと思います
- ・グループの方々とは、自治会の運営方法がそれぞれ異なり目から鱗の良い気づきになりました。
- ・基本にご高齢の方が多く、担い手不足が課題と皆さんおっしゃっていました。大変申し上げにくいのですが、若者が参加しても楽しくないからだと思えます。北柏の小斎さんのように実践されている方もいるので、もっと若者の意見を取り入れ、働いて忙しい方々は、もっと効率よい自治会運営などにならないと、参加は厳しいと思えます。それに、それは以前もやったがうまくいかなかった、辞めた方がいい、ではなく、登壇された五十嵐会長の様に、若い人がやることを応援し、最後は謝るからというスタンスの先輩がいる事は、本気になる若い人が増えるのではと思いました。
- ・他の自治会の悩みごとと同じだと知ることができて良かったです。参考となる意見もありました。
- ・自治会という枠組みだけでなく、地域を共に考える仲間という感じがしました。温かな場を作っていただき、ありがとうございます！
- ・次回は有料にした方が良くと思います。
- ・グループワークでの大変になるお話を聞きました。自治会での催しで、人集めに試行錯誤しながら色々努力してる話がとても良かったです。後 餅つき大会で全部業者さんに頼んだ話もなかなかなものでした。
- ・五十嵐会長のお話が具体的でとても参考になりました。またこのフォーラムに参加されている会長さんたちは覚悟ができているのだと思えますが、ネガティブではなくポジティブな視点を忘れず意見交換されていたのが印象的でした。
- ・グループワークが課題解決の意見交換みたいになってしまったのが残念でした。
- ・Portlandは随分昔に行ったことがあります。空き缶のデポジット制度が全米で一番に導入されたように環境や社会問題に関心がある住民が多くいる地域なのでCity Repair Projectが成功する下地になったのではないかと感じました。また、整然と並びすぎた街のスパイスとも言えるでしょうか。
- ・グループワークは毎回大盛り上がりで、色々参考になる意見が聞けます。もう少し時間が長ければとも思いますが(時間が長くなった分だけまた盛り上がり結局、時間が足りなくなりそうですが)。

- ・グループワークで、他の自治会の皆さんから活動について伺うことができて、とても参考になりましたし、これから自分の自治会でも頑張ろうという気持ちが湧いてきました。
- ・基調講演は、日本環境とは掛けはなられている。寒村地域なら理解できるが都市部には具現化が難しい。理想はわかるがほとんど参考にはならない。例として聴いた。
- ・江戸川大学の先生の講演は一番聞きたいところに行く前に時間切れとなってしまって残念。自分は自治会活動の最終的な目的が「生きがいと自己実現」であり「防災」はひとつの到達点だと考えています。その点、今回の会で「楽しむ」「無駄なところ」という考え方にとても共感した。
- ・時間が足りない。
- ・自治会についてほとんど知識が無かったのですが、講演やグループワークを通して、地域を自分事として捉えることや、地域コミュニティを築くことの重要性を感じました。貴重な経験をありがとうございました。

●ご意見

- ・アフターフォーラムですが、テーブル席で無かったので、腰が持たず、途中退席は残念でした。今後はテーブル席をお願いします。
- ・このような機会を作っていただいた主催の皆さまには感謝いたします。ありがとうございました。
- ・基調講演とても参考になりましたが、日本における具体例など、より身近な内容も今後お聞かせいただきたく思います。事例報告 我らの五十嵐会長には、現在の湖北台自治会連合会について、分かりやすく語っていただきました。勉強になることばかりです。 追伸 事務局のみなさんで、これをまとめるのは相当なご苦労があったかと思います。 司会進行も素晴らしかったです。来年も期待しています。
- ・開催方式をハイブリットでどうか。
- ・グループワークの時間が足りませんでした。初めての参加で、アフターフォーラムがどの様なものか分からなかったため、参加しませんでした。
- ・他のグループのお話しも参考になりました やはり、抱えている問題はおおむね同じなのだと再確認しました。
- ・懇親会で、平日日中に大災害が起こった場合にどうなるか、子供を迎えにいけるのかわからないが各市の職員さんへ質問しましたが、皆わからず、流山の職員さんは、休み明けにすぐに確認します。大切な事だとはわかりましたので、と返答してくれたのは、相談したかいがあったと思いました。市民からすると、行政のスピード感大切だなあと実感しました。引き続きこのような機会があればと思いました
- ・参加したい方が、定員オーバーで参加できませんでした。
- ・楽しみながら活動する事は、暗いイメージの自治会にはとても大事な事だと思います。 このフォーラムに参加したおかげですが、すぐには出来ませんが、やれる所からやりたいと 思います。
- ・ワークの進行役でしたが、お一方自分の自治会の相談になってしまう方がいて非常に苦労しました。しかし他の方たちが答えてくれたり共感してくださったので「お悩み相談」的な場面にもさせていただきました。その分「楽しい活動」の対話は不足になってしまったと思います。補佐役の牛島さんが素晴らしく要点をまとめてくださり、気づいた点もメールで共有してくださったので大変感謝しております。
- ・職場の名前が違っていました(>_<) 正式名称ではなかったのが、悲しかったです。 訪問介護みのり ✕ 訪問 看護ステーションみのり TOKINO 柏 ○ 柏市には同じ名称『みのり』と言うステーションがありますが、支援するのが身体と精神で全く違います。もちろん、会社も違います。

- ・アフターフォーラムは良い企画だと思います。ただ、色々な人と話をするという観点では立食形式も良いかと思います。 いつものながら、大変勉強になるフォーラムを開催頂き、有難うございます。スタッフの皆様、お疲れ様でした。
- ・初めての参加でしたが、とてもためになったので、次回以降もぜひ参加したいです。
- ・事例報告は、自分達の環境に類似しており、参考になることが多々あり、勇気を頂いた。また、本音ベースの講演に心打たれた。
- ・次回も参加したいので案内をメールでくださると嬉しいです。
- ・準備等ご苦労様でした。

7. アルバム



いよいよフォーラムが始まります



少し緊張気味の参加者



進行の片岡さんと二宮さん、廣田教授(真ん中)



星野市長と五十嵐委員長



Aグループワーク



Bグループワーク



Cグループワーク



Dグループワーク



Eグループワーク



Fグループワーク



影山さんの講評



車座で打ち合わせ



盛り上がったアフターフォーラム(海華)



たくさん寄付金を頂きました！